

プール学院報

愛と奉仕
140th
 POOLE GAKUIN
 FOUNDED 1879

第**85**号
 2017年8月1日
 発行

学校法人 プール学院
 〒544-0033
 大阪市生野区勝山北1-19-31
 TEL.06-6741-7005
 FAX.06-6731-2431



ご挨拶

入学式 —平和を求めて—

理事長・学院長 杉山 修一

今年も桜の花が咲き競うなか、中学校・高等学校、大学・短期大学部で、希望に胸を膨らませた新入生を迎える喜びの入学式が行われた。キリスト教学校として当然のことながら入学式では聖歌が歌われ、聖書が読まれ、入学許可宣言、式辞、祝辞と続き祈りをもって入学式は終わった。式後校門前に並んで記念写真を撮影する親子の姿を見て、何気ない当たり前の入学式を行うことができる幸せを改めて実感した。昨今の我が国を覆う戦前への回帰とも思われるさまざまな現象を見るにつけ、このキリスト教学校の聖歌を歌い、聖書を読み、神への祈りを捧げて行われる入学式を何としても大事にしたい、守り続けよう、そう考えた。

1939年(昭和14)、第二次世界大戦が勃発したこの年を最後にプール学院でのクリスマス礼拝は行われなくなり、翌1940年(昭和15年)には日独伊三国同盟の締結に伴い、戦時下態勢が一層強化され校名が

敵性語であるとされたプール高等女学校から聖泉高等女学校へと改名され、礼拝はもちろんのこと一切のキリスト教に基づく教育は行われなくなっていった。太平洋戦争開戦直後の1942年(昭和17)4月8日に行われた入学式は開式敬礼・宮城遙拝・皇軍将兵武運長久祈願並びに護国英霊、特に海軍特別攻撃隊九軍神に対し感謝の黙祷・国歌二唱・勅語奉読と続き、その後入学許可宣言と学校長式辞が行われている。現政権が推進する教育政策に戦前の超国家主義体制下の入学式を想像して、キリスト教に基づく教育を行う使命を再確認するとともにそれを守ることの大切さ、そして困難とを痛感した今年の入学式であった。入学した生徒・学生にとって未来が真の平和に満ちたものであるよう祈りたい。

「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」

(マタイによる福音書5:9)

CONTENTS

理事長・学院長挨拶	1
[大学・短期大学部]	
大学教職員メッセージ	2
短期大学部の取り組み	4
[中学校・高等学校]	
校長挨拶	6
生徒メッセージ	7
卒業生紹介	7
行事紹介	8
クラブ等の成果	8
進路関係	9
主な行事	9
キリスト教の メッセージ&コラム	10
同窓会だより	11
法人だより	12
学院人事	12
編集後記	12



教師を志す学生を総合的に支援する 教職センターをめざして

プール学院大学 教職副センター長 磯島 秀樹

本年度で教育学部が設置されて4年目を迎え、学生の在籍数は500名を超えました。在学生の多くは、教師をめざしています。教職センターは、「教員採用試験に合格して教諭として教壇に立ちたい」という夢の実現に向けて励んでいる学生を総合的に支援するセンターとして、以下の3つの支援業務を行っています。

学力向上プログラム

一つ目は、学力向上プログラムです。採用試験での筆答試験では7割から8割以上正答することが求められます。そのためには、1年次から基礎学力を身に付けていくことが大切です。学生の皆さんは、キャリア基礎科目(数学・国語・理科・地理歴史・政治経済・教職教養A・B)を受講するとともに「ポイントアップ講座」や「教職てらこや」等を活用して授業外学習に力を入れ、基礎学力の向上に努めてください。



教職センターでは、学生の皆さんの学力向上をサポートするため、以下の業務を行っています。

- ① 教職センター自習室の提供: いつでも好きな時に自ら学ぶことができる学習空間を提供しています。
- ② 教職関連の情報提供及び参考書・問題集の貸し出し: 参考書や過去問題集を取り揃え、いつでも見たり借りたりできます。
- ③ 教員になるための相談: 教員になりたくて進学したけれど、教職に就くことへの疑問や不安を感じたり、どのように準備すればいいのか分からなかったりするとき、学校現場での教職経験をもつ専門のスタッフが相談に乗ってくれます。
- ④ ポイントアップ講習の開催(夏・春 ほぼ3週間): 数学・理科・社会を専門の先生が講習し、問題の解き方を指導します。
- ⑤ 教職てらこや: 苦手意識のある教科(理科・数学・社会)のフォローアップとして全学年を対象に「教職てらこや」を実施しています。専門の先生が丁寧に質問に答えてくれます。火曜が数学、木曜が社会、金曜が理科で、授業期間中、毎週開催されます。時間は12時30分から17時30分です。
- ⑥ 学力状況調査の実施と課題の把握: 教育学基礎演習・教育学演習との連携のもと実施します。試験結果はチューターの先生に報告し、一人ひとりの学力を把握し、きめ細かな支援を行います。
- ⑦ エクステンション講座(有料)の実施: 教員採用試験一次筆答対策として教職教養を中心に実施します。

教員採用試験対策プログラム

二つ目は、教員採用試験対策プログラムです。主に、以下の業務を行っています。

- ①教員採用試験の情報提供：年度初めに送付される各自治体からの教員募集案内を学内へ広報するとともに、各自治体による教員採用説明会やネット上から情報を収集して提供します。また、大阪府、大阪市、堺市、豊能地区の採用説明会を学内で実施します。
- ②教員採用試験に関する相談：「小学校教員採用試験を受けたいが、どうやって勉強すればいいかわからない」「教員採用試験では、どんな内容の試験があるのか」「出願書類の書き方が不安だ」「論作文を書いたが、これでいいのか見てほしい」「面接での答え方がわからない」等の疑問や不安について、専門スタッフが丁寧に対応します。
- ③教師塾の受講及びチャレンジテスト受験支援：1次筆答試験免除となる「大阪府教志セミナー」「大阪市教師養成講座」「堺・教師ゆめ塾」へのエントリー及びチャレンジテスト受験に向けてのアドバイスをします。
- ④論作文対策：どの自治体でも何らかの作文が課されます。多くの論作文に関わった指導者が、提出された論作文を添削し、留意点や改善点などのアドバイスをします。
- ⑤面接対策：教員採用試験では、集団または個別面接に加え、集団討論や場面指導などさまざまな形態での面接が行われます。教師の資質・能力をみる面接試験は教員採用試験の重要なポイントです。経験豊富な指導者が丁寧に指導します。



- ⑥教員採用試験対策合宿の実施：教員採用試験は、学力だけではなく、さまざまな視点から総合的に評価されます。そのために、さまざまな内容、方法で試験が行われるので、一人で立ち向かうには困難が多くなります。

その対策として、また、教職をめざす学生の皆さんの熱意と意欲に応えるために、1年次生から3年次生を対象とした2泊3日の寝食を共にする合宿を実施しています。合宿では、集団討論や論作文、模擬テストなど、一人ではなかなかできない内容を軸に、朝から夜まで集中的に学習することができます。仲間とともに頑張ることで、意欲も向上します。

- ⑦自然体験合宿の実施：学校現場では、林間学校等の校外活動が行われており、それらを指導する力が求められています。このような体験は個人ではなかなかできないことから、夏季休業中に自然体験合宿を実施し、校外活動を体験することで指導力の向上をめざします。

実践的指導力養成プログラム

三つ目は、実践的指導力養成プログラムです。このプログラムは、本年度より教職センターの業務に加われました。教師に必要な資質・能力を高めるには、大学での授業に加えて教育現場等における実習が必要です。そこで、教職センターでは、同プログラムとして、①インターンシップに関する業務、②介護等体験に関する業務、③教育実習に関する業務などを行っています。

以上3つの支援業務は、教師をめざす学生の皆さんにとって必要不可欠なプログラムです。

教職センターは、学生の皆さんの「教諭になる」夢が実現できるよう、3つの支援業務の一層の充実を図っていきます



短期大学部 オープンキャンパスの新しい展開

2018年度入試に向け、短期大学のオープンキャンパスは楽しい話題が盛りだくさんです。

まず、広報キャラクター「ぶーたん」がデビューしました。誕生日は6月2日(創立記念日)で、イギリス生まれの日本育ちです。気配りのできる秘書か、優しくて責任感のある保育者になることを夢見て、プール学院大学短期大学部で学生と一緒に過ごしています。

ご覧のとおり、ぶーたんは羊です。聖書の中で人は羊にたとえられ、人は羊と同じように弱い生き物ですから一人では生きていけません。また、羊は自分の道を見失い、迷いやすい動物だと言われています。羊が羊飼いのよって正しく安全な場所に導かれるように、人はイエス・キリストに守られ導かれる存在なのです。そこで、学生たちが本学で学ぶことによって多くの人と出会い、充実した日々を過ごし、進むべき良い方向に導かれますように…という祈りから、ぶーたんは生まれました。



オープンキャンパス開催日は、ぶーたんがデザインされたのぼりが立ち並び、学生スタッフはピンクのぶーたんTシャツを着て、明るくにぎやかに来場者をお迎えしています。そして、来場者へのプレゼントはマスコット人形やマスキングテープなどの、さまざまな可愛いキャンパスグッズです。

まず最初に、エレノアホールに来場者をお迎えし、学生スタッフが司会進行を務め、在学生が出演する大学紹介のショートムービーを上映します。秘書科、幼児教育保育学科の学生たちの日常の学生生活、何を夢見てどのような学びをしているのか、そして、学生と教員の距離の近さを分かりやすくお伝えする映像です。オープンキャンパス当日はチャペルのほか学生ラウンジでも、学生たちの弾ける笑顔や花や緑が豊かな美しい泉ヶ丘キャンパスの様子を、この映像を使ってご紹介しています。(ショートムービーは短



大のホームページ入試広報サイト「ぶーたんの部屋」でもご覧いただけます。)

そして、間もなく140周年を迎える学院の歴史も懐かしい写真と共にご紹介しています。1879年に永生学校として誕生、1950年に短期大学(英文科)が開学、1984年に秘書科、2006年に幼児教育保育学科が設立され、そして現在に至る長い歴史は本学の宝物です。それをぜひ、本学に興味を持ってくださった方々にお伝えしたいと考えました。毎回、最後のスライドで説明が締めくくられますと、チャペルは温かい拍手に包まれます。その拍手を聞くたびに、この素晴らしい宝物を授けてくださった宣教師の方々、守り育ててくださった先輩教員職員の皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいになります。

豊かな人間性と知性を持ち社会で活躍する女性を育て続けている本学の伝統に魅力を感じ、たくさん的高校生と保護者の方々がお越しくださることを願っています。

大学のホームページや短期大学部のFacebook、TwitterやInstagramから、在学生の活躍の様子や広報活動の展開などを随時発信していますので、ぜひご覧ください。

それでは次に、両学科の取り組みをご紹介します。



秘書科



Ⅰ 学科会場での

来場者に対するおもてなし

学科会場では、学生スタッフが大きな役割を担い、会場に来られた高校生や保護者の方に好印象を持っていただけるように、おもてなしをしています。学生は「秘書実務」の授業でお客様への接し方を体系的に学びますので、その実践の場として会場運営を補助しています。

学生スタッフには、お客様をお迎えするのにふさわしい身だしなみとマナーが求められます。「秘書実務」でも着用している清潔で動きやすいスーツ姿で、来場された方々に笑顔で明るくご挨拶し面談の席にご案内します。お飲み物をお出しする動作にも丁寧かつスマートさが求められます。また、教員とともに来場者に学生生活のお話をする機会も

多くあります。このようにオープンキャンパスを学びの場として、学生スタッフは胸を張って社会人になれるように成長しています。



Ⅰ 秘書科のキャリア教育

短大を志す方々の多くは、2年後の就職に向けて秘書科がどのような教育を行っているのかを知るために来場されます。そこで、入学前から内定獲得までいくつもの「仕掛け」を用意して学生を指導していることをご説明します。

新卒者に求められるのは「社会人基礎力」と呼ばれる「職業に関する基本的な技能」と「社会人としてのマナーと教養」です。これらを習得するための「仕掛け」は秘書科が1984年に開設されてから長年にわたって培ってきたノウハウに基づくものです。入学前のスクーリングから始まり、コミュニケーション力を養う行事、各教員の指導のもとで活動する秘書科プロジェクト、企業研究、そして書類の書き方や面接への臨み方などのキャリア教育を受け、卒業生たちは多くの企業様に採用され活躍しています。



幼児教育保育学科



来場者の方々には主に「案内コーナー」「相談コーナー」「音楽コーナー」の3つのコーナーに参加していただけます。その他に、物づくりのブース(缶バッチ体験、プラバン作り)や実習日誌(見本)の閲覧ブースなどもあります。

Ⅰ 案内コーナー

学生スタッフが各教室の案内を行うコーナーです。ここでは、実際どのような授業があるのか、学生の視点から説明しますので、来場者も具体的なイメージを描きやすいようで、例年好評を得ています。

Ⅰ 相談コーナー

こちらでは、幼児教育保育学科の教員による個別相談を行っています。基本的には、来場者一人ひとりに対して相談を受けていますが、お友だち同士など

の複数のグループでも可能です。入試制度や学科の特色、学生生活など、来場者の様々な質問にきめ細やかに応えています。



Ⅰ 音楽コーナー

まず、本学はピアノ進度が初心者である学生から受け入れていること、初心者には入学前にピアノ講習会を数回用意していること、入学後は「スタートアップ講座」と銘打たれたピアノ授業を開講していることを伝えています。

次に、学生スタッフがピアノ伴奏をし、誰もが知っている有名な幼児歌曲で、少し難易度の高いお洒落な曲(例えば「さんぼ」「にんげんっていいな」等)を来場者と一緒に歌います。時には「おもちゃのチャチャチャ」や「幸せなら手をたたこう」を即興器楽合奏することもあります。

これらはみな、本学科の音楽関連授業で実施しているものを、事前に少し体験していただくという趣旨で行っています。学生スタッフたちの演奏や語りが、大きな魅力になっているコーナーです。





E-Actの様子

キリスト教大学推薦コースの設立

—私立女子中学、苦境の中で—

校長 内海 伸晃



大阪の私立中学全体の生徒募集が苦境に立たされている。昨年度(2016年度)は女子中学校14校で募集定員を上回ったのは1校。今年度(2017年度)も2校しか募集定員を確保することができていない。各校毎年のように募集定員を減らしているにもかかわらず生徒確保が困難な状況である。

本校も例外ではではない。2007年度、志願者685名、入学者260名をピークに9年連続減少を続けていた。原因としては、複数の要因が重なり合っていると考えられる。2007年度は、新校舎竣工でかつて経験した事がないほどに人気があった。しかし、生徒一人ひとりに目が行き届かず、生徒指導、進路指導とも不十分であり、生徒・保護者の満足度も低かった。2002年から始めたアドバンス・スタンダードコースも成果が今ひとつであった。

そのような状況の中、大阪の私学に共学化の波が押し寄せてきた。競合校が次々に共学化していった。特に男子校が共学化した影響は大きく、本校の受験生は大きく減少した。

大阪府の政策も大きく変化した。公立高校入試で学区を全廃し、トップテンと称される学校に優秀な生徒を集め始めた。その結果、公立中学に入学して塾に通い、高校受験で勝負する、という考え方が浸透した。少子化の影響とともに私立中学校離れが進み、逆風が強まった。

いっぽう、進学塾も、国公立大学や有名私立大学の合格実績が高い私立中学に重点を置く姿勢を強めた。受験生や保護者は、国公立大学進学率の高さや関関同立推薦入学の確実さを私立中学選びの規準として強く志向するようになった。

このような情勢の中、プール学院が受験生を増やすにはどうすればいいか? 近年、様々な学校改革を試みてきた。プレテストや午後入試の実施など入試の見直し。6年間一貫特進コースを設置。居残り補習や勉強合宿を実施。高校での校内予備校の導入。他私学で行われていることを参考に多くの学習方法を導入した。

そして、生徒一人ひとりにできる限り愛情を注いだ結果、学校が変化し始めた。中学生の模試の成績が徐々に向上してきた。生徒

達の行動が落ち着き始めた。積極的に挨拶もできるようになってきた。日々の礼拝も生徒達が自主的に行うプレゼンが増え、メッセージの内容もかなり充実してきた。また、行事の中では特に体育祭が大きく変わった。高校生のダンスが復活し、はつらつと取り組んでいる。その他の伝統的な合唱コンクールや、クリスマス礼拝も感動のある行事となっている。

さて、今回設定した「キリスト教大学推薦コース」は、どうすれば本校の良さが理解され、本校にしかできない特徴を出すことができるか、という視点で考えた。今、生徒の学習や礼拝や学校生活に向かう態度が向上し、行事が充実し、クラブ活動も活発になりつつある、このタイミングで新たなコースの設置に踏み切った。

「キリスト教大学推薦コース」は、プール学院と母体を同じくする聖公会の立教大学や聖路加国際大学、キリスト教同盟校の青山学院大学、指定校推薦枠を長年いただいている国際基督教大学(ICU)、明治学院大学、東京女子大学等のキリスト教大学との連携を図り、中学校入学の段階から基準をクリアすることによって大学への推薦を保証するコースである。首都圏の大学への進学に目を向けているのが大きな特徴である。関西圏でも、同志社女子大学、神戸女学院大学との連携がすでに締結されており、多くの推薦枠が設けられている。関西学院大学も趣旨を理解していただいている。これらの大学へ約30名の推薦を予定している。

カリキュラムも、キリスト教学校の特徴を前面に打ちだし、新しい英語コミュニケーションプログラム「E-Act」等も実施している。

今年度、特進GCコース入試合格者の上位半数をキリスト教大学推薦クラスとする、として募集したところ、予想通り反響も大きく、昨年度実績を上回る入学生徒数であった。特に、同窓生のお嬢様が数多く入学してくださったことにも感謝している。今回このような評価をいただき、発展的に「キリスト教大学推薦コース」とするにあたり、さらに信頼され、ご期待に添えるような教育内容を実践していかなければならないと心している。

生徒メッセージ

子どもの里と出会って

高校Ⅲ年G組 武 一期

私たちは3月7日に西成区にある釜ヶ崎に行きました。釜ヶ崎は、日雇い労働者の街とも言われており、大阪だけでなく、地方からも仕事を求めておっちゃんたちが集まってきます。私は、行く前は治安のあまり良くない場所だと思っていましたが、実際におっちゃんと話したり炊き出しに参加させてもらううちにその印象はすっかりなくなっていました。そして、おっちゃんたちを支援する団体がたくさんあるということも知りました。

フィールドワークの中で印象に残っているのは子どもの里でのたくさんの出会いです。子どもの里とは、地域の子どもをはじめ、親の虐待を受けている子や障がい者の方、赤ちゃんから高校生まで、誰でも利用できる場所です。施設長であるしょうほ庄保さんにお話を伺い、

実際に子どもたちに会いたいと思い、ボランティアとして春休みに通いました。ボランティアと言っても何をしたら良いかわからず、庄保さんに「何を手伝えば良いですか」と聞くと、「遊ぶだけでいいんですよ。遊ぶことが子どもたちにとって一番のストレス解消やから。」と言われ、私は思いっきり遊びました。子どもたちは本当にパワフルで、疲れることを知りません。そして子どもたちは色々なことを教えてくれました。大きい子どもは小さい子どもの面倒を見て、里の子どもたちは自然と手話を使っていたり、誰かから教えてもらうことなくみんなが相手を思いやっているんだと感じました。子どもの里は一つの家族のように温かくて誰にとっても安心できる場所なんだと身をもって感じました。

私はこのフィールドワークを通して釜ヶ崎の温かさを知り、もっと知りたいと思うようになりました。釜ヶ崎には今なお偏見が残っています。しかし、どんなことも自分で見て感じて、伝えることが大事なんだと知りました。



シリーズ
第25回

活躍する
卒業生

フードコーディネーター「むめもみ」代表
粕山 玲未さん(第54回高校卒業生)



「食」を通じて人が集う場所をつくる

2013年フードコーディネーターとして独立。屋号につけた『むめもみ』の、「むめ」は、料理人だった祖父母が、おやつより何より「梅干し」が好きだったわたしのために、毎年漬けてくれていた「うめ」の古い呼び方から。食べることが大好きで、強いこだわりがあった幼少期。そんなわたしの思いを、祖父母はいつも叶えようとしてくれました。

フードコーディネーターの仕事の一つは、撮影のお料理を「おいしそうに」魅せるということです。そのために、食材を選び、食器を選び、盛り付け方を考え、料理をします。メニューを提案してレシピを制作することや、テレビ番組の裏方で出演者が食べる料理を作ることもあります。

ただ、撮影での料理は、見た目を重視するあまりに、表面だけにきれいな焼き色をつけて中身は生のままだったり、照りよく見せるために必要以上にシロップなどを塗ったりと、撮影後には決して食べられないものになり処分しなければならないことがあります。最初、違和感があったものの、約5年のアシスタント時代を経て、それが当たり前になりつつありました。

そんな時に出会ったのが、「生産者」のかたの存在です。きびしい自然の中、季節と向き合い、害獣や天候から作物を守り育てるために日々汗を流されている姿を目にしたとき、ハッとしました。このままではいけないのではないかと。以来、自分が携わる撮影の料理は、

撮影後も捨ててしまわず食べられるように、食材ひとつひとつを無駄にしないようにと、心懸けるようになりました。農家さんや漁師さんの元へ足を運び、自分の目で見て、話を聞いて、感じたことを「食べる」ひとたちにちゃんと伝えたい。ひとは生きている限り食べなければなりません。「食べることは生きること」ですが、その「食べる」ことが「幸せ」なら、なお素晴らしいことだと思うのです。

プール学院で6年間を共に過ごした友人たちは、今も支えになってくれています。何かしようという時には、いつも気にかけてくれていて、困った時には手伝ってくれたり、手伝ったり、他愛もない話をしたり、悩みを相談しあったり。わたしにとってかけがえのない存在となっています。歳を重ねて母になったり、仕事でもキャリアを積んでバリバリ働いていたり、職種も違えば歩む道も違った友人たちと、今でも定期的に集まって、わたしが料理を作り、みんなで食べながら延々とおしゃべりを楽しむ。時に泣いたり笑ったり、喜怒哀楽を分け合って過ごす時間が、わたしにとって宝物です。

今後の夢であり目標は、「食」を通じ、人と人が繋がり、集う場所を作ること。それはカフェだったり、イベントだったり、料理教室だったり、まだまだ試行錯誤中なのですが、いつか、必ずカタチにしたいと思います!

ローズビル・カレッジ音楽交流

外国語科教諭 山崎 凌

4月19日(水)、オーストラリアのシドニー近郊にあるローズビル・カレッジより、51名の生徒が来校しました。この学校は、本校と同じ聖公会系ミッションスクールで、音楽教育に力を入れている女子校です。

同校の生徒たちは、午前中に生け花体験をしたり授業に参加したりしました。そして午後からは、本校弦楽部と吹奏楽部の生徒たちとともに音楽交流を行いました。最後には「春の夜の音楽祭」という名のコンサートをを行い、両校それぞれのクラブの楽曲をお互いに



披露し合ったり、讃美歌やそれぞれの国を表す楽曲と一緒に演奏したりしました。

本校では音楽教育や英語教育に力を入れています。また、キリスト教教育で



は、聖書を通して目に見えないものを大切にする「心」を育みます。今回は弦楽や吹奏楽という音楽や英語を使った交流がなされました。

弦楽や吹奏楽のために編曲された音楽には歌詞が無いため、たとえ原曲の歌詞を知らなかったとしても、旋律を通して心で感じることができると思います。

今回の音楽交流を通して、国や言語、文化を超えた繋がりを持つことができました。多感な時期とも言われる思春期に、同時に音楽と英語の両方を通して教育を受けられたことは、どうやら本校生徒のみに許された特権であったような気がしてなりません。むしろ思春期を過ぎ大人になってしまった私には、もう二度とその様な経験ができません。多感な時期に、そのような教育を受けられた生徒たちのことが、本当に羨ましく思われます。生徒たちにとって、今回の経験が生涯の財産となること願うばかりです。

生徒体験メッセージ

ローズビル・カレッジの皆様との音楽交流は、私たちにとって大変有意義な時間となりました。他校の方々と共に演奏させていただくのは初めてなうえ、海外からの留学生ということもあり、楽しみな反面、緊張もありました。しかし、練習中にわからないことを質問し合って音楽を通してコミュニケーションを取ることができ、その緊張もすぐに解けました。また、練習時間はあっという間に過ぎましたが、一緒に弾かせていただいた皆さんは吸収が早く、演奏も上手で私たちも見習わないと、痛切に思いました。今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

高校Ⅲ年B組 高校弦楽部部长 長谷部 カンナ

ローズビル・カレッジの方々に来てくださり、とても良い経験をすることができました。最初は自分たちの想いを英語で伝えられるかがとても不安でした。しかし、ローズビル・カレッジの皆さんはとてもフレンドリーだったので、そのような不安はすぐなくなりました。今回の音楽交流を通して、言葉や文化は違っても、音を奏でて楽しむということは、世界共通であるということを実感しました。短い時間でしたが、お互いの演奏を披露し合い、讃美歌と一緒に演奏したことは、一生の思い出になると思います。このようなかけがえのない経験ができたことを嬉しく思います。

高校Ⅲ年B組 高校吹奏楽部部长 加藤 静流

クラブ等の成果

〈団体の部〉

- 高校美術部
- 大阪府高等学校芸術文化連盟美術・工芸部門展覧会 1.29
入選 玉岡那菜(旧IF)
美術功労賞 山根菜子(旧ⅢA)
- 高校放送部
- 二年生アナウンス発表大会 1.29 優秀賞 稲田緋奈(旧IF)
- 朗読発表大会 3.26 優秀賞 稲田緋奈(旧IF)
- 高校創作舞踊部
- 第6回ダンス・ガラOSAKA 3.19
最優秀賞 吉永茜(旧ⅡB) 石井そよ(旧ⅡA)
- 高校フォークソング部
- 3.24 Spring Festival 2017 最優秀賞 佐野晴香(ⅢA)
- 第60回全国書きぞめ作品展覧会 1.21 大阪市長賞(団体)
- 平成28年度ニュース時事能力検定 優秀団体賞
- 日本英語検定協会 優秀団体賞 奨励賞

〈個人の部〉

- 大阪府立中央図書館 本のPOP広場 11.6
泣きま賞 谷口美実(旧1B)
- 第5回近畿高校生プレゼンコンテスト 12.3
優勝 上林愛佳(ⅡA)
- 中学生の税についての作文 12.15
生野納税貯蓄組合連合会会長賞
長瀬美七海(旧3B) 楠木愛奈(旧3C)
生野租税教育推進協議会会長賞 木村美紗子(旧3C)
- 第60回全国書きぞめ作品展覧会 1.21
大阪府PTA協議会賞 杉本真友希(旧ⅡC) 西村結(旧1C)
全日本青少年書道振興協会賞 木村美菜子(旧1C)
大阪市PTA協議会賞 福田悠花(旧1C)
研究会賞 岩井彩菜(旧ⅡA) 奥野優佳(旧ⅡB) 岡田梨花(旧1A)
池田七望(旧1A) 谷口美実(旧1B) 川田愛紗(旧1B)
筒井亜美(旧1B) 益池彩乃(旧1C)
西口愛美(旧1C) 松下千華(旧1C)
- 第20回図書館を使った調べる学習コンクール2.25
佳作 粕谷奈応(旧3A) 江草朱音(旧3B)
岡本麻佑(旧3B) 葉室舞子(旧3B)
吉田優衣(旧3B) 入口知紗妃(旧3C)
津田向日葵(旧3C)

2016年度高Ⅲ生の進路状況

進路指導部長 澤村 厚司

2017年度センター試験の志願者数は、前年度より12,199人多い、575,967人でした。志願者数、受験者数ともに前年度より微増となりました。国公立大では国立大を中心に後期日程を廃止して推薦・AO入試を実施する動きがあります。(大阪大の世界適塾入試等)法学、国際関係学、薬学系統の志願者数が増加している一方、語学、社会学、歯学、医学、農学系統は志願者数が減少しています。私立大では、人文科学、法学、経済・経営・商学、社会学、国際関係学系統などで志願者数が増加して

います。一方、歯学、薬学系統などで志願者数が減少しています。文系学部の人気はしばらく続くと考えられます。

本校では、卒業生217名のうち、4年制大学へ175名(80.6%)、短期大学へ8名(3.7%)、各種専門学校などへ13名(6.0%)が進学しました。昨年と比べて短期大学への進学が減りました。4年制志向が強いことは例年通りです。芸術系では京都市立芸術大学に現役生3名、既卒生1名が進学します。資格志向は続いていて医療系(特に看護系)や生活・食物栄養系、教育系への進学者が今年も多いです。看護系は倍率が高く、本校でも最後の最後まで志望を貫いて、後期試験で合格した生徒が多かったです。最後まで意志を貫き、粘り強く学習する生徒が増えることを望みます。

2017年度入試 合格実績 卒業生数:217名

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
国公立大学計	16	京都女子大学	3	甲南女子大学	22	短期大学計	9
神戸大学	2	関西外国語大学	8	神戸松蔭女子大学	10	関西外国語大学短期大学部	2
大阪府立大学	1	京都外国語大学	6	京都光華女子大学	8	大阪信愛女学院短期大学	2
大阪教育大学	1	四天王寺大学	7	神戸女子大学	7	大阪女学院短期大学	1
和歌山大学	1	大阪大谷大学	6	大阪樟蔭女子大学	5	大阪成蹊短期大学	1
奈良女子大学	1	桃山学院大学	4	梅花女子大学	2	白鳳短期大学	1
奈良県立大学	1	摂南大学	7	神戸親和女子大学	1	青山学院女子短期大学	1
京都市立芸術大学	4	大阪工業大学	9	大阪芸術大学	9	立教女学院短期大学	1
信州大学	1	摂南大学	7	大阪音楽大学	1	専門・各種学校計	13
高知大学	2	畿央大学	7	京都造形芸術大学	5	大阪労災看護専門学校	1
岡山県立大学	1	帝塚山大学	5	大阪総合保育大学	1	大阪病院付属看護専門学校	1
公立鳥取環境大学	1	森ノ宮医療大学	4	4年制私立大学(近畿圏外)計	13	大阪府病院協会専門学校	1
4年制私立大学(近畿圏)計	319	追手門学院大学	4	早稲田大学	1	日本医療学専門学校	1
関西学院大学	18	関西福祉科学大学	4	立教大学	2	大阪医療秘書福祉専門学校	1
関西大学	11	大和大学	3	青山学院大学	2	大阪調理製菓専門学校	2
同志社大学	9	藍野大学	2	国際基督教大学	1	グラムール美容専門学校	1
立命館大学	5	大阪歯科大学	2	学習院大学	1	ベルランド看護助産専門学校	1
京都産業大学	5	京都橘大学	2	聖路加国際大学	1	高津理容美容専門学校	1
近畿大学	28	大阪産業大学	2	東京女子大学	1	大阪ウェディング&ブライダル専門学校	1
甲南大学	3	関西国際大学	1	女子美術大学	1	大阪ベビィ動物看護専門学校	1
龍谷大学	8	関西医療大学	1	洗足学園音楽大学	1	大阪工業技術専門学校	1
同志社女子大学	21	関西福祉大学	1	多摩美術大学	1	海外計	0
神戸女学院大学	27	四條畷学園大学	1	日本女子体育大学	1		
武庫川女子大学	13	阪南大学	4				

(4月22日現在)

主な行事

1月	7日	始業の日	2月	10日	高校1次入試	3月	6日~8日	中2修学旅行スキー合宿
	10日・11日	実力考査		14日	高Ⅲ卒業礼拝 高校1.5次入試		14日	中3卒業礼拝
	14日	中学1次A入試・1次B入試		15日	高校卒業式		16日	中学卒業式
	15日	中学1次C入試		16日	中高生徒自治会選挙		18日	終業の日
	18日	中学2次入試		17日~21日	崇徳女子中高来校		25日	中一貫・高Ⅲ一貫・ 選特・S文理特別終了
26日	中・耐寒訓練 高・合唱コンクール							
4月	1日	カナダ1年留学出発(高Ⅱ特進グローバル)	5月	1日	遠足	6月	2日	創立記念日
	4日	中高入学式		2日	教会礼拝		8日	体育祭
	5日	中1 E-Act 高Iオリエンテーション合宿(~6日)		6日	PTA総会			
	8日	始業の日		13日	授業参観			
	14日	中高新入生歓迎会		27日	中学オープンスクール			
	15日	ニュージーランド3ヶ月留学出発(高Ⅱ)						
	19日	Roseville College(AUS)との音楽交流						

中学校・高等学校

「聖書と私」—み言葉という羅針盤—

チャプレン 成岡 宏晃



詩篇第119編105節に「あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯」という聖句があります。10年前、私が教会で洗礼・堅信に与ったとき、教会の牧師さんがプレゼントして下さった聖書の表紙に書かれていた言葉です。頂いた時は、この言葉の意味があまりよくわかっていませんでしたので、「暗闇の中でも、聖書を読みながら、ろうソクで照らされた細い道を歩くように生きていきなさい」というようなメッセージが込められているのかなと感じたことを今も鮮明に覚えています。あながち間違いではないかもしれませんが…。

み言葉が光であると感じたことは、それまでの人生の中で幾度もありましたが、歩みを照らす光というよりも、「名言」や「常套句」のように、その言葉自体がきらきらと輝いていて、み言葉を懐に抱いていると何となく神さまに守られているような気がする、一種の「お守り」のような感覚で、聖書を大切に抱えながら日々を過ごしていました。

私にとって「お守り」は、できる限り自分を困難な状況から遠ざけるためのものでした。今振り返ると、この頃は、教会に連なり、洗礼・堅信に与かったものの、本当の意味で、「神さまに守られている」ということを実感しないまま、ただ何となく教会に通っている日々が続いていたように思います。

神学校へ入学し、卒業後に結婚し、新しい家庭を与えられ、教会の牧師として、また学校のチャプレンとして役割が与えられ、それぞれの共同体の中で、大小さまざまな事柄において、一つの結論へと至るまでに、さまざまな立場の人たちが持つ、色とりどりの考え方に触れます。何が正しくて、何が間違っているのかということは人によって異なりますし、「正しい」と思っていることの大半が、「自分にとって都合が良い」という視点に傾倒してしまいがちな気がします。

み言葉によって照らされている道は、自分が歩きたいと感じる道ではないかもしれません。むしろ、「えっ、これが道なの?」と思ってしまうような、道なき道を歩むことの方が多いでしょ。それは、自分の中の「ちっぽけな常識」では、到底理解できないような考え方と丁寧に向き合い、必死に理解しようと努める行為にも似ているような気がします。神さまは、あえて私たちにそんな道を照らし、苦悶しながらも、聖書を通して絶えず新しくされる生き方を示されます。

プール学院に連なる一人ひとりが、キリスト教精神に基づいた、「愛(人を大切にすると奉仕(他者のために学び、行動を起こす))」を率先して実践する人<Servant Leader>を目指し、これからも「み言葉に照らされて」歩み続けられるようにと、願ってやみません。

大学・短期大学部

どうせ無理?

チャプレン 松平 功



「求めなさい。そうすれば、与えられる。探さなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」

(ルカ11章9節)

将棋の永世名人である谷川浩司さんは、小職の高校3年時の同級生です。ただ、同級生と言っても、ついこの間まで日本将棋連盟の会長をしていた偉い人になられていて、今では雲の上の存在です。あれから、40年近く経ちますが彼の席が小職の真後ろでしたので、もしかすると今でも憶えてくれているかもしれません。

さて、谷川君は高校時代すでにプロ棋士でしたので、あまり学校に来ることができなかったようで、来ても早引けすることが多かったと思います。谷川君が登校したある日のことですが、丁度その日は全国模試だったのです。あまり授業に出ていない彼がテストを受けるのは少し可哀想だと思ったのですが、それは意味のない憐みでした。何と、彼の成績は全国7位だったのです。全教科ではなく国語の試験結果だけでしたが、学級全員が大いに驚いたことは言うまでもありません。実のところ、小職にとってこのことは驚きだけではなく心に絶望をもたらすものでもありました。授業を真面目に受けている自分よりも、あまり授業を受けることなく将棋のプロとして忙しく活躍している彼の方が、テストではるかに上位にいて、自分の能力に対してがっかりしたわけです。またその時、谷川君が将棋の対局で目を閉じて考えると、頭の中に何百手先までの駒が動いているのを想像できると言っていたことを思い出しました。この世には「本当に天才がいるのだ」ということを思い知らされました。今考えてみれば、天才と自分のような凡才を比較すること自体、馬鹿げたことなのですが、当時の自分は天才と凡才を区別して考えることができなかったのです。そして、天才谷川浩司を前にして出てきた言葉が「どうせ僕には無理」だったのです。

小職と同じように色々なことに直面した後に「どうせ無理」と考えてしまう人は、結構多いかもしれません。それが当たり前になると、直面する前から「どうせ無理」と考えるようになってしまいます。聖書は、そのような弱気になる人々にアドバイスを与えます。「探せ、叩け、求めよ。そうすれば受け、見付き、開かれる」というのです。「どうせ無理」と言ってあきらめず、努力し続けることの重要性を訴えていると受け取ることも可能な教えです。そして、このような教えがキリスト教学校における強みではないかと感じるのです。生徒や学生に努力することの大切さと積極的に挑戦することの尊さを教え、尽力する中で神からの助けが得られることを伝えたいと願っています。まさに「天は自ら助くる者を助く」のです。



「2017年度 定時社員総会」開催報告

広報委員会委員長 浦垣 敏子(高77回・江畑)

2017年5月20日(土)午前11時よりプール学院勝山キャンパスのラウンジにおいて「一般社団法人POOLE 2017年度定時社員総会」が開催されました。出席39名、委任状出席49名(社員総数132名)により定足数を満たし総会成立となり、議長に鈴木光子理事長が選出され、第1号から第6号議案は全て全員挙手で承認・可決されました。(定款第4章第18条による)

第6号議案により、退任理事に拍手でその労に感謝を捧げ、新任理事を紹介、承認されました。

新役員紹介

理事長	鈴木 光子(小柴)	73回
常任理事	古川 和子(婁鹿)	75回
常任理事	大塚 陽子(今江)	76回
理事	山口 博子(山口)	77回
	浦垣 敏子(江畑)	77回
	福井 良子(田中)	77回
	黒川か代子(西庄加代子)	78回
	市成美砂子(樋渡)	86回
(学年代表委員長)	桑平麻由子(桑村)※	86回
	南本由香里(岡本)※	86回
	岡田 由美(野本)	87回
	樋井佳津子(西村)	87回
	鍋島真由美(加納)	87回
	古東真智子(長友)	92回
監事	内田佐知子(手塚)	74回
	豊田賀世子(岡本)	77回
(ミヅパ会会長)	五十嵐泰子(佐藤)	84回・E26期
※・・・新任	E・・・旧短期大学英文科	



「2017年度 同窓生の集い」開催報告

2017年5月20日(土)午後1時よりプール学院勝山キャンパスの清心館において、「一般社団法人POOLE2017年度 同窓生の集い」が開催され、約160名の同窓生が集いました。

第1部 成岡宏晃チャプレンの司式で開会礼拝ののち杉山修一理事長・学院長よりプール学院教育の精神は、ガラテヤの信徒への手紙の一節『互いに重荷を担いなさい』の中にその思いがあります。かつてA.W.プール主教はミス・メアリー・J・オスクラドによって開校された「永生女学校」を発展させるため、自ら様々な苦しみや困難を担い、希望を失わず、

信仰によって与えられた「愛と奉仕」の精神を貫かれました。そして私達もその思いを繋ぎ、今もこれからも『めいめいが、自分の重荷を担うべきです』というメッセージを受け、同窓会の祈りをささげました。

第2部 社員総会(当日午前開催)の報告・会計報告、大学同窓会ミヅパ会と各委員会等の報告がありました。

第3部 同窓会コーラスPOOLEが日々の練習成果を素晴らしい歌声で響かせてくださり、続いてスペシャルゲストの加奈みゆき(高78回・村瀬順子)さんによるJAZZ LIVEで清心館全体が心地良い時空へと誘(いざな)われました。

「同窓生の集い」終了後、同窓会館2階において恒例の「手作りバザー」・「喫茶ルーム(有料)」が開催され和気藹々とした親睦のひとときを楽しみました。(浦垣 記)



「第2回 子育て親育ちカフェ」開催報告

広報委員会 鍋島 真由美(高87回・加納)

桜の花びらが風に舞う春の午後、第2回目となる「子育て親育ちカフェ」が田宮由美先生(88回生)のもと9名の参加者で開催されました。

今回は、子育てを終えた方が多かったため、『人間関係を円満にして、個人が成長し変化するための心理療法セミナー』。人との接し方についての自分のくせ・個性を「ワーク」を交えて探り、色々なストローク(存在認知の刺激の一単位)を振り返り話し合いました。「ワーク」の結果に一喜一憂し、各々に自分の知らなかった一面を発見したり、自他共に大きく納得したりと自分を見直す事ができ、興味深いお話をお聞きする事ができ、笑いの中楽しい時間を過ごしました。「子育て親育ちカフェ」始め種々多様な企画・イベントを今後も発信できればと思っております。



【第2回】
2017年4月15日(土)
午後1:30~3:30

2016(平成28)年度決算について

1. 2016年度の決算に影響した主な事業

(1) 泉ヶ丘キャンパス

- ・運動負荷試験装置、生理機能測定装置の購入
- ・グラウンド照明設備の設置
- ・プロジェクターの設置(教室)

(2) 勝山キャンパス

- ・プロジェクターの設置(清心館)

(3) 全体の決算に係る事項

- ・前年度末退職者の退職金支払いに伴い、退職給与引当特定資産の取り崩しを行った。
- ・8名(うち選定年2名)に対する退職金を計上した。
- ・将来のための資金留保として、資産運用支出で退職給与引当特定資産1,000万円、減価償却引当特定資産300万円、オクスラド基金引当特定資産1,000万円を繰り入れた。

(2) 事業活動収支計算書

(単位 千円)

事業活動収入の部		事業活動支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	1,466,953	人件費(含退職金)	1,465,767
手数料	21,162	教育研究経費	729,173
寄付金	18,937	管理経費	260,714
経常費等補助金	583,237	徴収不能額等	0
付随事業収入	38,120		
雑収入	123,395		
教育活動収入計	2,251,808	教育活動支出計	2,455,655
		教育活動収支差額	△ 203,847
受取利息・配当金	553	借入金等利息	15,072
その他の教育活動外収入	0	その他の教育活動外支出	0
教育活動外収入計	553	教育活動外支出計	15,072
		教育活動外収支差額	△ 14,519
		経常収支差額	△ 218,366
資産売却差額	0	資産処分差額	1,384
その他の特別収入	93	その他の特別支出	0
特別収入計	93	特別支出計	1,384
		特別収支差額	△ 1,291
事業活動収入計	2,252,455	事業活動支出計	2,472,113
		基本金組入前当年度収支差額	△ 219,657
		基本金組入額合計	0
		当年度収支差額	△ 219,657
		前年度繰越収支差額	△ 4,500,264
		基本金取崩額	216,253
		翌年度繰越収支差額	△ 4,503,669

2. 当期決算の概要

(千円未満を切捨てているため、合計は一致しない場合がある。)

(1) 資金収支計算書

(単位 千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,466,953	人件費支出(含退職金)	1,476,132
手数料収入	21,162	教育研究経費支出	428,812
寄付金収入	18,937	管理経費支出	231,891
補助金収入	583,323	借入金等利息支出	15,072
資産売却収入	0	借入金等返済支出	83,320
付随事業・収益事業収入	38,120		
受取利息・配当金収入	553		
雑収入	123,395	施設関係支出	0
借入金等収入	0	設備関係支出	19,751
前受金収入	285,307	資産運用支出	254,500
その他の収入	361,277	その他の支出	133,795
資金収入調整勘定	△ 402,635	資金支出調整勘定	△ 162,321
前年度繰越支払資金	265,453	翌年度繰越支払資金	280,897
収入の部合計	2,761,850	支出の部合計	2,761,850

(3) 貸借対照表

(単位 千円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	9,109,557	9,445,367	△ 335,810
有形固定資産	7,990,181	8,300,992	△ 310,810
特定資産	1,118,470	1,143,470	△ 25,000
その他の固定資産	905	905	0
流動資産	668,888	641,763	27,125
資産の部合計	9,778,445	10,087,130	△ 308,685
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,384,251	1,489,600	△ 105,349
流動負債	651,687	635,365	16,321
負債の部合計	2,035,938	2,124,966	△ 89,027
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	12,246,175	12,462,429	△ 216,253
第1号基本金	12,074,450	12,222,425	△ 147,974
第4号基本金	171,725	240,004	△ 68,278
繰越収支差額	△ 4,503,669	△ 4,500,264	△ 3,404
翌年度繰越収支差額	△ 4,503,669	△ 4,500,264	△ 3,404
純資産の部合計	7,742,506	7,962,164	△ 219,657
負債及び純資産の部合計	9,778,445	10,087,130	△ 308,685

■ 学校法人役員・評議員

〈就任〉-2017.4.1付-
評議員 松原 恵美子、松平 功

〈重任〉-2017.4.1付-
理事・評議員 桜井 和之、加藤 明宏
理事 鈴木 光子
評議員 松岡 興二、倉戸 直実、
原 徹、楠原 博次

〈退任〉-2017.3.31付-
理事・評議員 大西 修
評議員 田中 眞一、竹内 信義
藤井 竜平

■ 役職者

〈就任〉-2017.4.1付-
法人事務局長 桜井 和之
〈退任〉-2017.3.31付-
法人事務局長 加藤 明宏

■ 教職員

〈新任〉-2017.4.1付-
*大学・短大
チャプレン 松平 功
学 監 梶田 毅一
(桃山学院教育大学学長予定者)
教授 越智 貢、鎌田 首治朗
(特別任用) 栗岡 住子、中村 哲
湯峯 裕
講師 舞 寿之、大畑 昌己
(特別任用) 柴 恭史、大内田 真理
織田 恵輔
職員(常勤管理職嘱託)
堀本 誠、植田 眞治
*中学・高校
教 諭(任期制専任) 宮井 亜人夢
-2017.7.1付-
*本 部
職 員(任期制専任) 田中 幸一

〈退職〉-2017.3.31付-

*大学・短大
チャプレン 竹内 信義
教 員 D.マッセルホワイト※
木下 百合子、岡田 邦夫※
臼井 正幸※、松田 光弘※
保田 恵莉、秋武 寛
非常勤講師 丸山 政行、西道 実
加藤 源太郎、佃 繁
尾崎 靖二、市山 成治
石井 祐治
職 員 平田 小百合
※岡田邦夫は客員教授に就任、
D.マッセルホワイト、臼井正幸、松田光弘
は非常勤講師として勤務
*中学・高校
教 員 藤井 竜平、M.ラブレディ

■ 訃 報

● 森 聖雨氏
2017.4.23逝去(83歳)
名誉教授
1997.4.1~2004.3.31
大学教授
ご在職中のお働きを覚え、
つつしんで魂の平安をお
祈り申し上げます。

■ 寄贈感謝(卒業寄付)

- 大学2016年度卒業生 250,000円
- 短大2016年度卒業生 250,000円
- 高校2016年度卒業生 1,000,000円

「学校に関すること」や、「新しい法律」で、マスコミ等を賑わしている昨今です。国家のために私たちの日々の歩みがあるのではなく、一人ひとりの幸せのための学校そして社会でありたいと願います。小さな学院の歩みですが、生徒・学生をはじめ皆様が平和の中で歩まれるよう、胸にぎざみつつ祈ります。「桜」